

NPO やすらぎの郷 いいの

安心して住み続けられるまちをつくりたい！



## 空への想い 10周年記念号 その2

千貴森頂上からの360°パノラマは幼い頃から目に焼きついていました。いつかは空を飛んで見たい夢を持っていました。小学校時代の夢は、飛行機のパイロットでした。たこ上げゴム動力の飛行機を飛ばしていたのを今でも鮮明に覚えています。人は飛べないので空への憧れは誰にでもあると思います。

大人になりラジコンヘリコプター、ドローンに出会い練習を重ね空を自由に飛ぶ事が出来る様になりました。小学校時代の夢が叶った様な気がします。

これからも空から眺める飯野町を発信して行きたいと思います。

ドローン撮影・文 高橋 忠市



## みんなの広場



ヘルパー事業所では毎年お誕生日のお祝いをしています。今年度は百歳以上の方が3名います。以前ご紹介した方に続きお二人をご紹介します。



### やりたいことはやってきた

松本ミツギさんは昨年10月に100歳を迎えられました。

ニコニコと元気な声と笑顔で迎えて下さいます。歌が好きで、可愛い声で何曲か聞かせてくれます。

田んぼや畑仕事は91歳まで現役で、90歳くらいまでは好きな温泉へ時々行っていました。温泉好きなミツギさんは、デイサービスのお風呂が楽しみ。

若い時には東京空襲の体験があります。川を挟んでなんとか助かり、その日のうちに上野駅から帰ってきた、と息子さんが教えてくださいました。「やりたいことはやってきた人。長生きしたからこのままでいいよ。」と二人は満足なご様子。

ミツギさんも「しあわせ」と、またニコッと微笑まれました。

<松本 ミツギ>

### 今が一番いい時

吉川ツギさんは、今月103歳を迎えられました。

息子さん夫婦と暮らしています。「今が一番いい時だね」とご家族に感謝の気持ちで穏やかに話します。

嫁いで1ヶ月も経たないうちに旦那さんは兵隊に。会社勤めだったツギさんは、大きな家の田畑や養蚕など大変な仕事を背負いました。旦那さんは2度目の出征に。「でも親切でいい人だったよ」



家を守りながら子どもたちを育て、暮らしを支えるための我慢はたくさんされてきました。

ヘルパーさんが来てくれて、たくさんお話をしながらのお風呂は楽しい時間になっています。

「あたり前のことをしているだけだよ」と話す息子さんから、ツギさんの歩んできた人生の深さを感じました。

<吉川 ツギ>

# NPO 設立してから 10 年 その歩み 〈その 2〉

理事長 伊藤 敏寛

平成 25 年 10 月に当法人が設立してから 10 年になりました。前月号に引き続き、歩みを振り返ります。

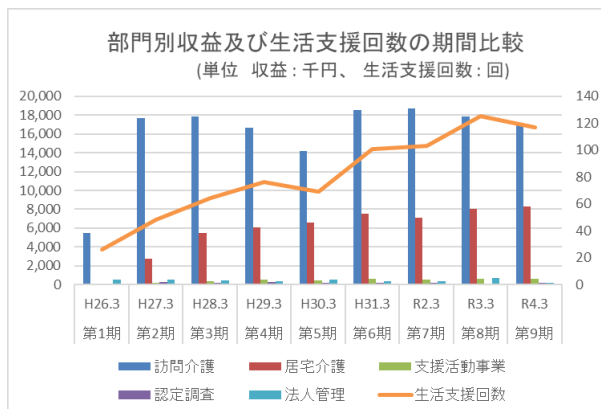
## 生活支援活動（有償ボランティア）

当 NPO は、“住み慣れた地域で安心して生涯生活を過ごすことができるように支援すること”を目的とし、その目的を達成するために事業を行います。事業の大きな柱は、①介護保険サービスの事業（ヘルパーやケアマネジャー）②生活支援を必要とする方への支援事業（有償ボランティア）です。【右上図】生活支援事業は増加傾向にあります。（オレンジ色）

## 型にはまらない、その人に合った支援

一人暮らしの A さんに、スーパーかコンビニから食べ物を買って定期的に届けてもらえないかと地域包括支援センターから依頼が入りました。事情を聞くと、東京に住む息子さんが市で行っている配食サービスを何度頼んでも、すぐに断ってしまうし、ヘルパーも家に入らせないようだとのこと。有償ボランティアによる、食事配達兼安否確認が始まりました。ドリアなど限られたものしか手を着けてくれませんでした。

こうした背景には、昔、自分が



一人の社会人として会社で働いた後、飲食関係の店を経営してきたというプライドがあったように思います。

しかしながら、歳を重ねるにつれて認知症が進み、日常生活もおぼつかなくなり、また好きであった車の運転技術も落ち、買い物に出かけて軽い傷をつけるようになりました。運転をあきらめてもらうように工夫したり、食事確保の支援を行いました。

どんな食事が好みなのか、2つから選択してもらうような配慮をする中でコミュニケーションがとれるようになり、訪問介護につながることができました。

“支援を必要とする人”の生活支援活動なので、対象者であるかどうか？何に困っているのか？その人は何を大切にしているのか？をたえず考えながら、とりくんできた歩みだったと思います。



# <安心して住み続けられるまち リレートーク その17



## 未来へつなぐ

日本でコロナウィルスの感染者が初めて確認されてから三年がたち、四年目を迎えます。初めの年に比べれば行動制限も緩和され、少しずつコロナ前の生活に戻りつつあるものの、当施設においては行事など以前のようにはなかなか戻れない状況です。

利用者様の支援においては職員間の情報共有や協力は言うまでもなく、この状況だからこそ感じる当たり前の生活を大切に、気持ちを明るく保つことを意識しています。そして笑顔で過ごす1日を重ねていくことが大切だと思っ



て、利用者様一人一人にふれあっています。

人と人とのつながりは私達の生活を豊かにしてくれます。日々の生活では当たり前に思っている、意識しないと出来ないこともあります。思いやりのある言葉、前向きな言葉は自分自身、そしてまた人に対しても元気づける言葉になります。人と人をつなぐ気持ちの良い挨拶と心温まる言葉が行き交う施設を目指し、コロナ禍により見えてきた今までは違った形の支援をどのように次につなげていくかが、これからの私たちの課題です。

デイサービスセンター風の丘  
管理者 安齋 健弘



会員・賛助会員  
ボランティア募集



NPO やすらぎの郷いいの  
福島市飯野町字前川16  
TEL 024-563-4804

ホームページ <http://yasuraginosatoiino.jp/>

### 一〇一言

当NPOが設立から10年になりました。設立された2013年は、マー君24連勝で楽天日本一、NHK朝ドラ「あまちゃん」現象があった年です。もう10年？まだ10年？10年はひと昔？ふた昔？ (K)